

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2022 年度事業報告書

2022 年度の当協会の事業等について報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 公式ホームページの充実とコミュニケーションツールを用いた交流の試行

- (1) 各研究会(分科会)⇒コミュニケーションツールである Microsoft Teams を活用し、各会員が自発的に各種研究会を発足、運営可能とすべく活動を行う。映画保存に関する技術的なノウハウやベストプラクティスについて共有を行う研究会や、日本における映画・映像保存法成立の可能性を考える勉強会、ノンフィルムに関する情報交換を行うコミュニティ等の発足を検討。

本年度も、コロナ禍の影響で、事業全体をウェブ中心に展開した。コミュニケーションツールとして Microsoft Teams を活用して、「一般」「よもやま」チャンネルの他に、フィルム・アトラスなどの研究会チャンネルを設置したが、2023 年 4 月 12 日に無料版(クラシック)終了に伴い、新無料版に移行する。このことから、研究会チャンネルをどの様に展開するか、今後検討が必要。

- (2) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては現在、対象者の検討を行っており、本年度から本格的にインタビューを始める。

本年度もコロナ禍により、対面形式の新たなインタビューの実施が難しかったため、開催にあたって協力した「映画の復元と保存に関するワークショップ 2021」の講演採録の作業を継続した。

- (3) 「ヒアリングによる日本タイピング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載

会員の郷田真理子さんによる「現像所技術者に聞くー日本タイピング技術史をまとめる試みー」を 2022 年 10 月 1 日に公開した。現在、第 2 回掲載に向け、編集中である。

- (4) IMAGICA-EMS との勉強会の一部公開

下記の勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できることー再発見するリリースプリントの価値ー」のガイダンス部分を、ホームページ上で公開した。

● セミナー、ワークショップの企画と実施の検討

昨年度中止となった、富士フィルムの見学会を 2022 年 9 月 5 日(月)に開催した。

また、IMAGICA-EMS との共催で、勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できる

こと一再発見するリリースプリントの価値」を12月3日(土)にオンラインで行った。

● **アーカイブ・ツーリズムの企画と実施の検討**

本年度もアーカイブ機関の現場などへの見学を予定していたが、コロナ禍のため、実現できなかった。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

● **基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討**

本年度もファンドレイジングに関する調査や検討を行うことができなかった。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

● **映画の復元と保存に関するワークショップ 2021(仮称)への協力**

本年度は、「映画の復元と保存に関するワークショップ」が開催されなかった。また、「映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力」については、前述のIMAGICA-EMSとの共催で、勉強会を行った。

4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動

● **ホームページ、Twitter を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索**

本年度から、本格的にホームページ、Twitter の活用を行った、非会員に向けたイベントはコロナ禍により、開催できなかった。

5. 2022年度定時総会の開催

本年度は、コロナ禍の影響で、オンラインによる総会開催(2022年6月25日)としたが、総会では、オンライン開催に関する定款変更、ならびに理事及び監事の選任、前年度の貸借対照表、損益計算書及び監査報告書の承認を得た。

また、同日にはイベント「JAMIA Annual Meeting 2022」(略称 JAM2022)を開催し、オンライン参加者とともに、「映像アーカイブこの1年」と題し、情報交換を行った。

6. その他

会員リストを会員限定で公開した。

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2023 年度事業計画書

1. 映像アーカイブに関する調査研究～

- 公式ホームページの充実とコミュニケーションツールを用いた交流の試行
 - (1) 各研究会(分科会)⇒コミュニケーションツールである Microsoft Teams が制約のなかった「クラシック」から、制約のある無料版となった中で、どの様に各会員が自発的に各種研究会を発足、運営可能とすべく活動を行えるか模索する。すでに開設している研究会に加え、映画保存に関する技術的なノウハウやベストプラクティスについて共有を行う研究会や、日本における映画・映像保存法成立の可能性を考える勉強会を行うコミュニティ等の発足を検討。
 - (2) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては現在、対象者の検討を行っており、本年度から本格的にインタビューを始める。
 - (3) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる「現像所技術者に聞く ー日本タイミング技術史をまとめる試みー」を、引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。

- セミナー、ワークショップの企画と実施の検討
 - 会員(ないしは一般への公開の可能性を含めた)に対する設立後初の対面セミナーあるいはワークショップの開催を検討する。

- アーカイブ・ツーリズムの企画と実施の検討
 - 映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、アーカイブ・ツーリズムの企画を検討する。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

- 基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討
 - 当法人による基金設置を含め、映像アーカイブ活動の立ち上げと継続を支えるためのファンディングとして、公的支援やメセナ等の民間支援の可能性を検討するために、情報収集を行う。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

- IMAGICA-EMS との共催で、勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できることー

再発見するリリースプリントの価値」を更に発展させるための方策を検討。

- 日本版 CNC 設立を求める会 (action4cinema)との間で、映画振興と映画保存に関する公開討論会の開催を検討する。
4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動
- ホームページ、Twitter を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索。
5. 2022 年度定時総会の開催
- 2023 年度定時総会を開催する。なお、今年度もコロナ禍の影響を考慮し、前年度に引き続き、オンラインによる総会開催の可能性を検討する。報告会と「JAM2023」は対面イベントとして開催を検討する。

以上